

2019年1月実績概要(メモ)

(2019. 2. 21)

エチレン等の生産は前年並みとなるが、誘導品の生産では品目毎で濃淡に差が出る。

1. 生産動向

イ) エチレン 580,800トン

前月比 + 3.2% (+18,100トン)

前年同月比 ▲ 0.6% (▲ 3,500トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	—	—
定修要因等	+ 2.1%	—
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 1.1%	▲ 0.6%
生産増減率	+ 3.2%	▲ 0.6%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月97.4%→ 当月98.4%← 前年同月98.9%

定修プラント：前月なし → 当月なし ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主に稼働率要因から LD、HD、MMA モノマー、EG、SBR、BR などの12品目がプラス。塩ビモノマー、トルエン、キシレンなどの5品目はマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因等から LD、HD、塩ビモノマー、EO、EG、AN、ベンゼンなどの12品目がマイナス。PP、PS、SBR などの5品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況 (LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、前月に生産が落ち込んだ LD、HD は、当月は稼働率要因から大幅なプラスとなった。また、PP、PS は前月を僅かながら上回る生産となった。

前年比では、LD、HD は稼働率要因や定修規模の差からマイナス。PP、PS は主に稼働率要因からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、年始休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少とともに、ユーザー側での当用買いのスタンスと見受けられることもあり、4樹脂ともにマイナスとなった。

前年比では、LD、HD は輸入品の増加傾向が一段落しつつあるもフィルム分野での出荷減少が続いておりマイナス。PP では、フィルム分野での出荷の低迷が続いているが、射出成形分野における出荷増加もあり全体ではプラスとなった。PS は前年の出荷が総じて低めであったため、これとの比較で特に電機・工業用、包装分野の出荷が増えプラスとなった。

ハ) 輸出

輸出は、ポリオレフィン3樹脂においては、これまでも低調に推移してきたが、当月は、更に輸出量が減少することとなった。このため、LD、HD、PP ともに前月比、前年比でマイナスとなった。

PS は前月比、前年比ともにプラスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PS の4樹脂で前月に続いて増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PS で上昇、PP は横ばいとなった。在庫水準としては、LD、HD は高め、PP、PS はほぼ適正レベルとなっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		12月末	1月末
LD	+45,900	3.3	3.9
HD	+17,300	3.4	3.7
PP	+44,000	2.8	2.8
PS	+9,100	1.3	1.4

以上